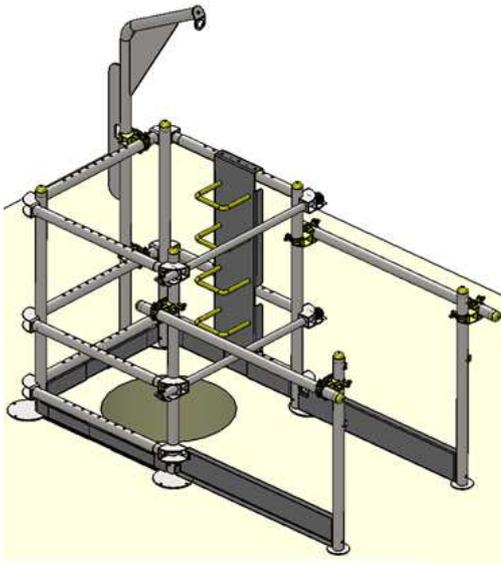


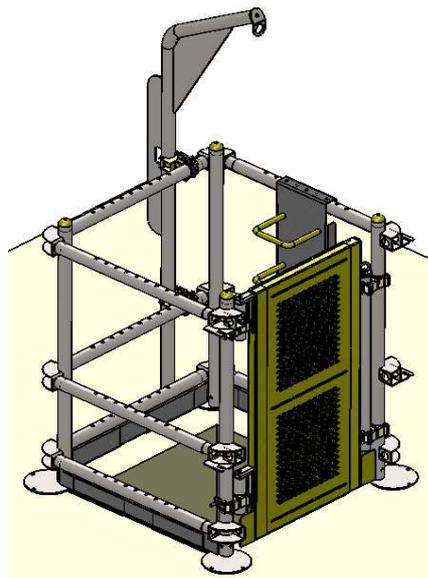
開口部養生 レンタルシステム

安全モグれるくん MOG-01 組立説明書

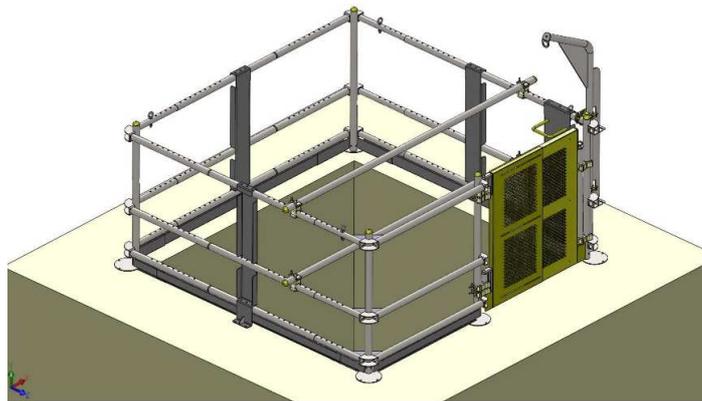
スライドバー仕様



扉仕様



2M開口部仕様



ウィルトラスト
wiltrust

設計・総販売元 株式会社ウィルトラスト

〒061-2282

札幌市南区藤野2条6丁目5-6

TEL011-796-1913 FAX110-351-5552

	ページ
目次	1
設置基準	2
免責事項	3
安全上のご注意	4
概略図	5
部材一覧① スライドバー仕様	6
部材一覧② スライドバー仕様	7
部材一覧① 扉仕様	8
部材一覧② 扉仕様	9
組立フロー スライドバー仕様	10
組立フロー 扉仕様	11
手摺部材の組み込み	12
手摺部材の各通しボルトの孔の位置決めとボルト仮止め	13
専用手掛けへのロフティーステップの取付	
専用手掛けの仮止め	14
開口部用巾木A・Bの仮止め	
作業通路用巾木と作業通路用支柱の仮止め	15
作業通路用手摺の仮止め	
墜落防止器専用吊金具の仮止め	16
開口部口スライドバーの準備	
開口部口スライドバーの取付	17
全体の増し締め	
単管キャップとクランプカバーの取付	18
最終確認	
扉ヒンジパイプと扉ロックパイプの取付	19
扉の取付と単管キャップ及びクランプカバーの取付	20
最終確認	
2M仕様の概要図	21
部材一覧① 2M仕様	22
部材一覧② 2M仕様	23
組立フロー 2M仕様	24
1.手すり部材の組み込み(2M仕様の場合)	25
2.専用手掛けの仮留め(2M仕様の場合)	26
3.開口部用巾木と中間柱の仮留め(2M仕様の場合)	
4.セルフロック専用吊金具の仮留め	27
5.渡しパイプの仮留め	
6.全体の増し締め	28
7.最終確認	

安全モグれるくん =設置基準=

- 転倒防止のため設置場所が平坦かつ風の影響がない場所である。
- 設置場所が沈下、滑動のない場所である事。
- 開口部が900mm以下である事。
- 設置場所まで、組み立て部材の搬入が可能である事。
- 組立・解体作業員が2名以上いる事。
- 開口部の横で組み立てるスペースある事。
- スライドバーを使用する場合はスライドバーを移動する際に邪魔にならないスペースが確保できている事。
- 墜落防止器専用吊金具設置の際に、上部の高さに余裕がある事。

安全モグれるくん =使用上の注意=

-  転倒防止のため屋内外問わず強固な固定を必ず行ってください。
-  墜落防止器専用吊金具は吊荷用等で使用しないで下さい。
他の用途で使用されますと、事故・破損の原因となります。
また墜落防止器の選定は衝撃荷重6.8KN以下の商品をご使用下さい。
-  スライドバーを収納時、先端部は切り欠きの中に『パチン・・・』と音がするまで収納し、且つストッパー金具(ITハンガー)も必ず取付けて下さい。
-  部材に油脂類が付着しない様に注意して下さい。
-  上段と中棧の間を無理してぐり抜けるのは危険です。
-  墜落防止器専用吊金具の先端部が破損、傷等、サビ等がないか使用前に点検して下さい。

免責事項

安全モグれるくんの組立に関して、この組立説明書に従い適切な組立を行って下さい。

万一不具合が生じた場合は下記の免責事項をご確認頂いた上で(株)ウィルトラストに、ご相談下さい。

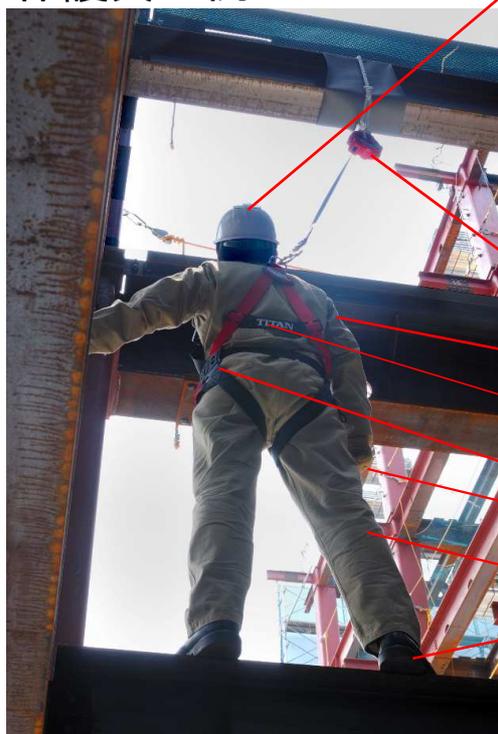
- 自然特性または通常の経年劣化による金属サビ、磨耗や汚れ変色などが生じた場合
 - 天変地異、地盤・周辺環境、公害などにより不具合が生じた場合
 - 飛来物などにより損傷した場合
 - 建物構造の変形、変位などによって不具合が生じた場合
 - 初期の損傷を発見後、速やかに届け出がなされなかった場合
 - 組立説明書に記載された標準組立以外の組立により、不具合が生じた場合
 - 納品当時での技術では予想する事が出来なかったことが原因により不具合が生じた場合
 - 指定付属品以外の部品の使用による損傷
- * 安全モグれるくんの組立、取扱いについては(株)ウィルトラストにて発行している組立説明書の内容を遵守して下さい

安全上のご注意

労働災害撲滅のため、安全作業に心がけ下記の記載内容などをお守り下さい。

- 落下、墜落の危険のある場所で作業するときは「労働安全衛生規則」に従って作業して下さい。また各種関係法令に従って作業を行ってください。

服装と保護具の例



ヘルメット
作業者名
血液型
連絡先
明記する

墜落防止器

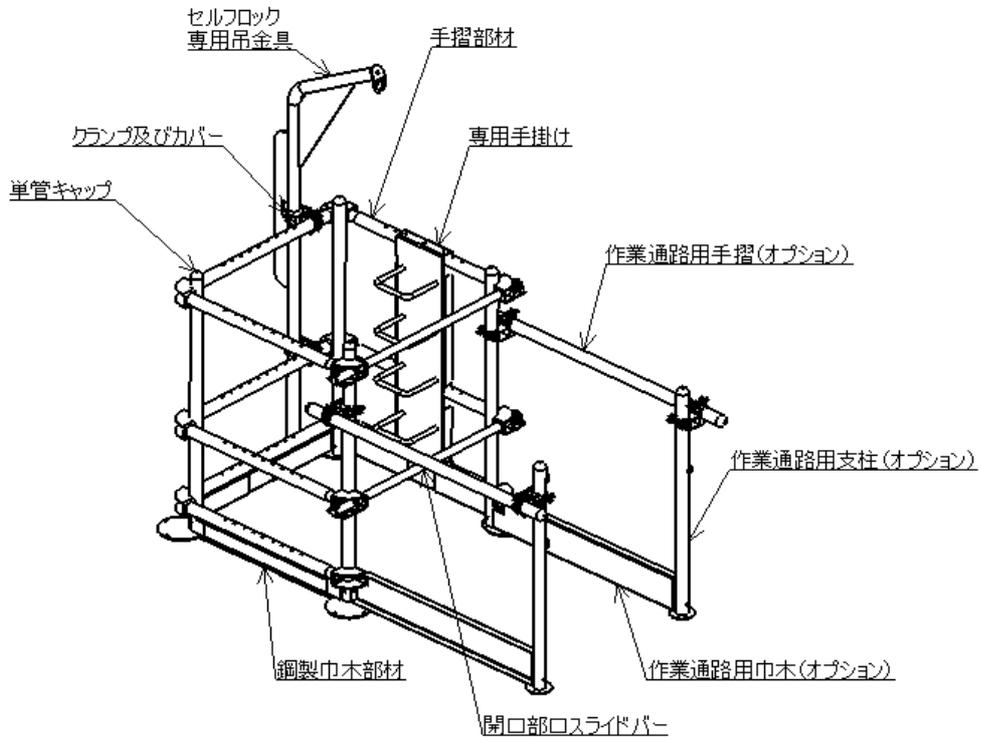
作業服
ハーネス型
安全帯
腰袋
手袋

作業ズボン

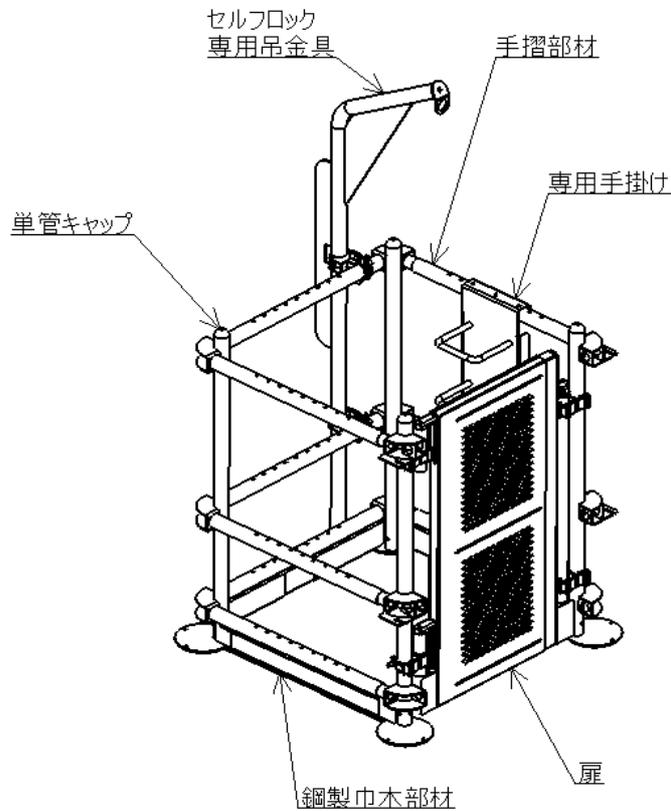
安全靴

安全モグれるくん概要図

スライドバー仕様

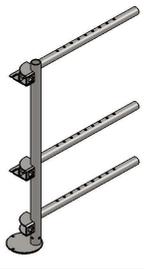
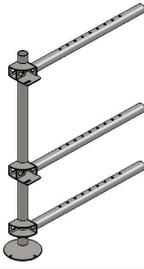
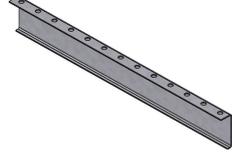
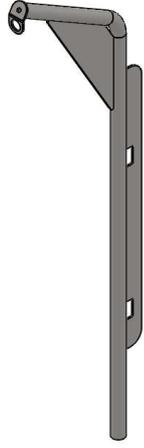
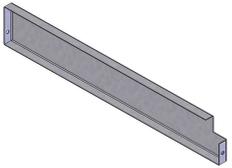
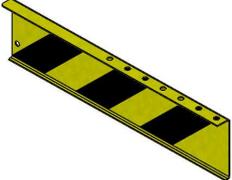
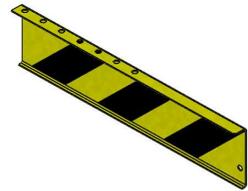


扉仕様



※セルフロックは
墜落防止器のメーカー名
称です。

部材一覧① スライドバー仕様

名称	手摺部材A	手摺部材B 左	手摺部材B 右	専用手掛け
形状				
個数	2	1	1	1
名称	開口部用巾木A 左	開口部用巾木A 右	開口部用巾木B	墜落防止器専用吊金具
形状				
	⇔ 勝手反対			
個数	3	3	3	
名称	作業通路用サイド巾木 左 ※オプション	作業通路用サイド巾木 右 ※オプション	作業用通路入口巾木 左 ※オプション	
形状				
	⇔ 勝手反対			
個数	1	1	1	1
名称	作業通路用支柱 ※オプション	作業通路用手摺 ※オプション	作業用通路入口巾木 右 ※オプション	
形状				
個数	2	2	1	
名称	D-LOCK 通路の両サイド左右 ※オプション	単管キャップ 手摺、支柱用 ※オプション	兼用直交クランプ 手摺、支柱用 ※オプション	クランプカバー 手摺、支柱用 ※オプション
形状	 M12*80			
個数	4	6	4	8

部材一覧② スライドバー仕様

名称	開口部ロスライドバー (長)	開口部ロスライドバー (短)	スプリング	ITハンガー
形状	900mm以下用 (上段、中段) 	600mm専用 (上段、中段) 	900mm以下用×2、 600mm専用×2 	900mm以下用×2 600mm専用×2 
個数	2	2	4	4
名称	D-LOCK	単管キャップ	兼用直交クランプ	クランプカバー
形状	 M12*80	手摺部材A,B用 	墜落防止器専用吊金具用 	墜落防止器専用吊金具用 
個数	28	4	2	4
名称	ロフティーステップ			
形状	専用手掛け用 			
個数	4			

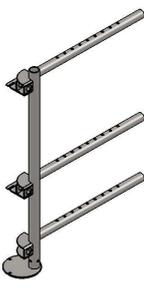
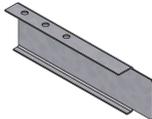
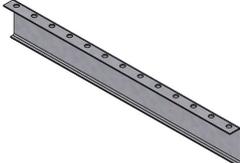
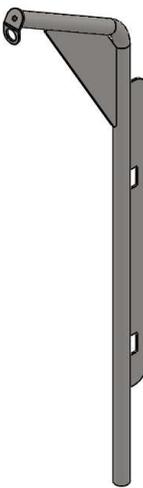
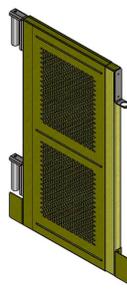
※組立前に全ての部品が揃っているかご確認下さい。

* 必要な工具等(参考)

充電ドライバー	六角ソケットビット17・19ミリ	巻尺	
プラハンマー	六角ソケットレンチ17・19ミリ	シノ	
モンキー(大)	スパナ17・19・32ミリ		
↑ 32ミリのスパナ代替			

○ その他、組立説明書を参考に必要機材・工具等をご準備下さい。

部材一覧① 扉仕様

名称	手摺部材A	手摺部材B 左	手摺部材B 右	専用手掛け
形状				
個数	2	1	1	1
名称	開口部用巾木A 左	開口部用巾木A 右	開口部用巾木B	
形状				
	⇔ 勝手反対			
個数	3	3	3	
名称	扉ヒンジパイプ	扉ロックピン	扉ロックパイプ	墜落防止器専用吊金具
形状				
個数	2	1		
名称	扉	ロックピン用ワイヤー		
形状				
個数	1	1	1	1

部材一覧② 扉仕様

名称	D-LOCK	単管キャップ	兼用直交クランプ	兼用自在クランプ
形状	 <p>M12*80</p>	<p>※4個中1ヶ所はロックピン設置用のため不要=3個</p> 	<p>墜落防止器専用吊金具用</p> 	<p>扉ヒンジ上下4個、扉ロックパイプ2個</p> 
個数	28	3	2	6

名称	クランプカバー	ロフティーステップ		
形状	<p>墜落防止器専用吊金具4個 専用扉6個</p> 	<p>専用手掛け用</p> 		
個数	10	4		

名称				
形状				
個数				

※組立前に全ての部品が揃っているかご確認下さい。

* 必要な工具等(参考)

充電ドライバー	六角ソケットビット17・19ミリ	巻尺	
プラハンマー	六角ソケットレンチ17・19ミリ	シノ	
モンキー(大)	スパナ17・19・32ミリ		
↑ 32ミリのスパナ代替			

○ その他、組立説明書を参考に必要機材・工具等をご準備下さい。

組立フロー スライドバー仕様

1. 手摺部材の組み込み



2. 手摺部材の各通しボルトの孔の位置決めとボルト仮留め



3. 専用手掛けへのロフティーステップの取付



4. 専用手掛けの仮留め



5. 開口部用巾木A・Bの仮留め



6. 作業通路用巾木と作業通路用支柱の仮留め(※オプション)



7. 作業通路用手摺の仮留め(※オプション)



8. 墜落防止器専用吊金具の仮留め



9. 開口部ロスライドバーの準備



10. 開口部ロスライドバーの取付



11. 全体の増し締め



12. 単管キャップとクランプカバーの取付



13. 最終確認

組立フロー 扉仕様

1. 手摺部材の組み込み



2. 手摺部材の各通しボルトの孔の位置決めとボルト仮留め



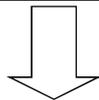
3. 専用手掛けへのロフティーステップの取付



4. 専用手掛けの仮留め



5. 開口部用巾木A・Bの仮留め



6、7の工程は無し
※オプションが必要であれば
扉取付の後工程に入れます

8. 墜落防止器専用吊金具の仮留め



9、10の工程は無し

11. 全体の増し締め



14. 扉ヒンジパイプと扉ロックパイプの取付

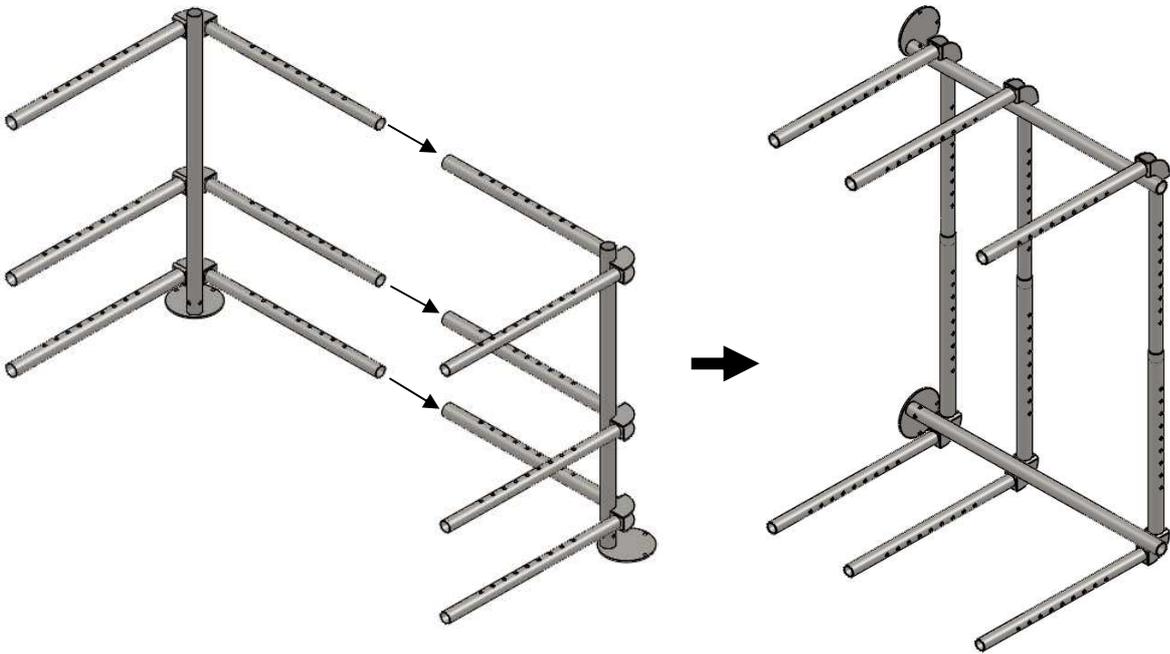


15. 扉の取付と単管キャップ及びクランプカバーの取付



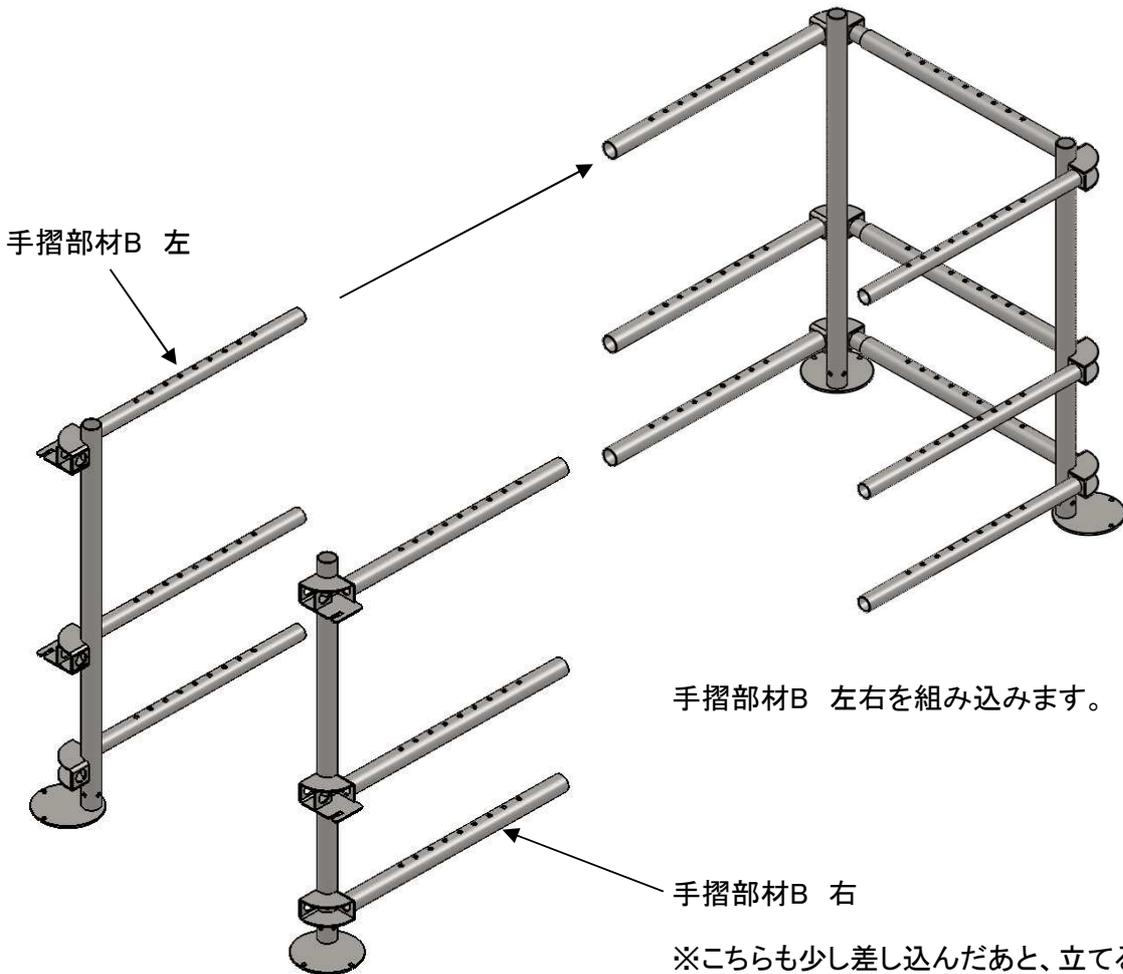
16. 最終確認

1. 手摺部材の組み込み



手摺部材A同士を組み込みます。

※少し差し込んだあと、立てると楽に組み込めます。



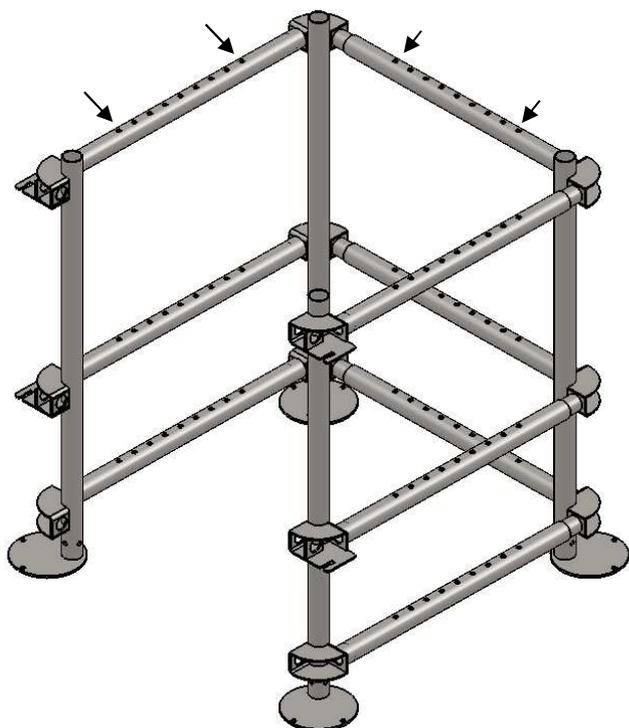
手摺部材B 左

手摺部材B 左右を組み込みます。

手摺部材B 右

※こちらも少し差し込んだあと、立てると楽に組み込めます。

2. 手摺部材の各通しボルトの孔の位置決めとボルト仮留め



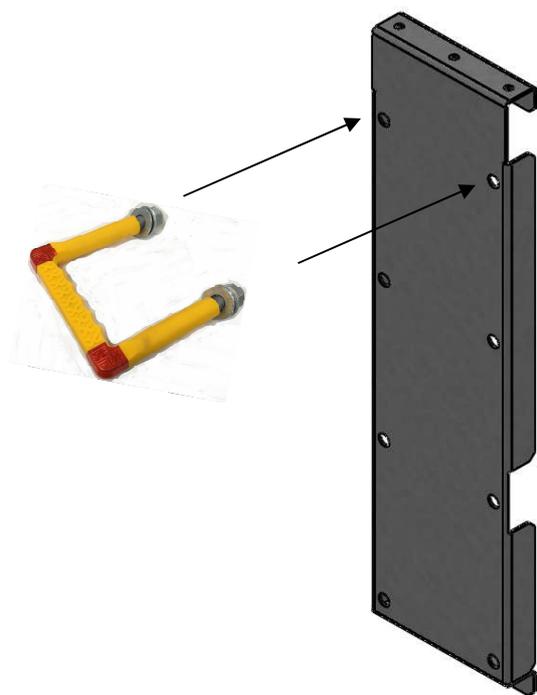
手摺部材A・Bの組み込みが終わったら各通しボルトの孔の位置決めをしながらD-LOCKボルトを使用して仮留めをして下さい。

孔の位置決めにはシノもしくはラチェットのシノ部などを利用して下さい。



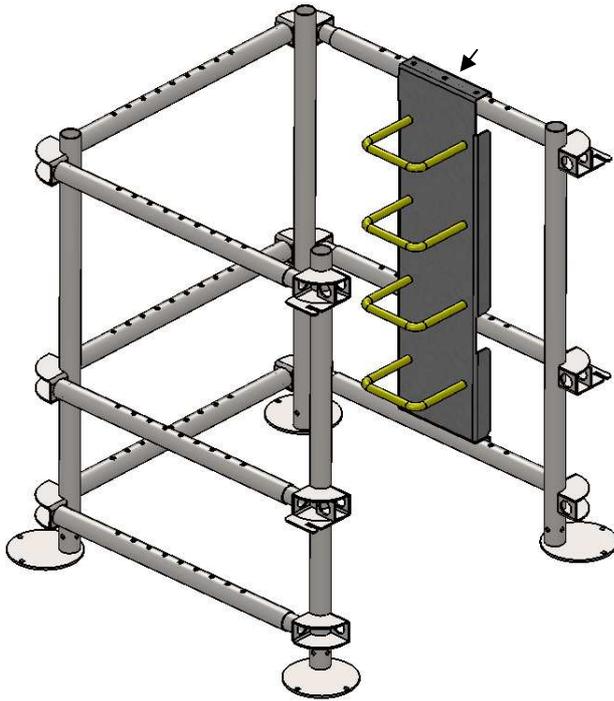
仮留めは一番上の段の端のほうの孔を使用して下さい。
※次項の専用手掛けの取付を確認し影響の無い孔を仮留めするか、もしくは手掛けと共締めして下さい。

3. 専用手掛けへのロフティーステップの取付



32ミリのスパナで締め付け
もしくは
モンキー(大)を
使用して下さい。

4. 専用手掛けの仮留め

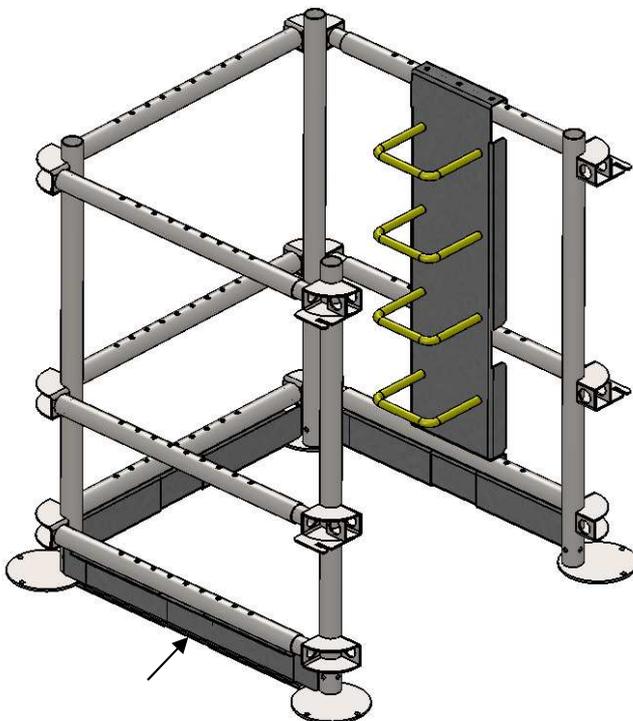


上部の孔3か所の内、2か所を仮留めして下さい。

※下部の孔は次項の鋼製巾木と一緒に共締めするので、仮留めしないで下さい。

※専用手掛けの取付位置は3面のどこでも取付可能です。

5. 開口部用巾木A・Bの仮留め



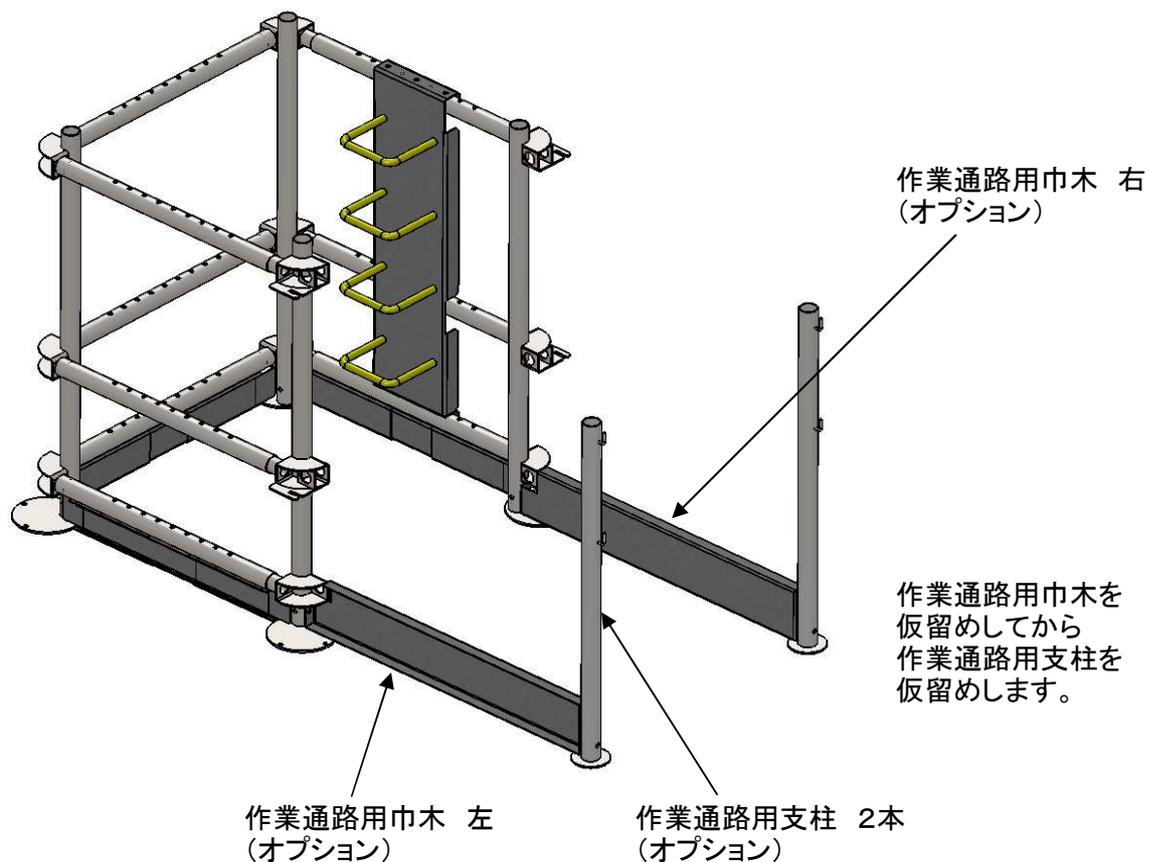
開口部用巾木A 左

開口部用巾木A 右

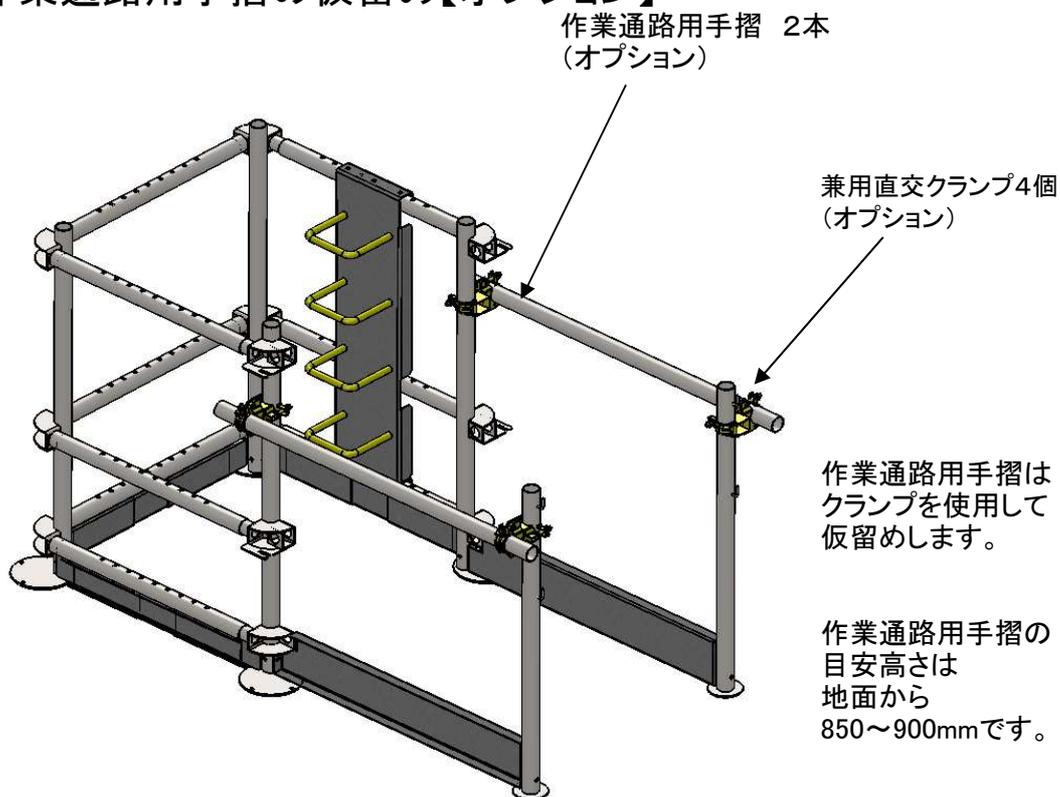
開口部用巾木B

あらかじめ↑のように組み合わせた開口部用巾木A・Bを本体に仮留めします。

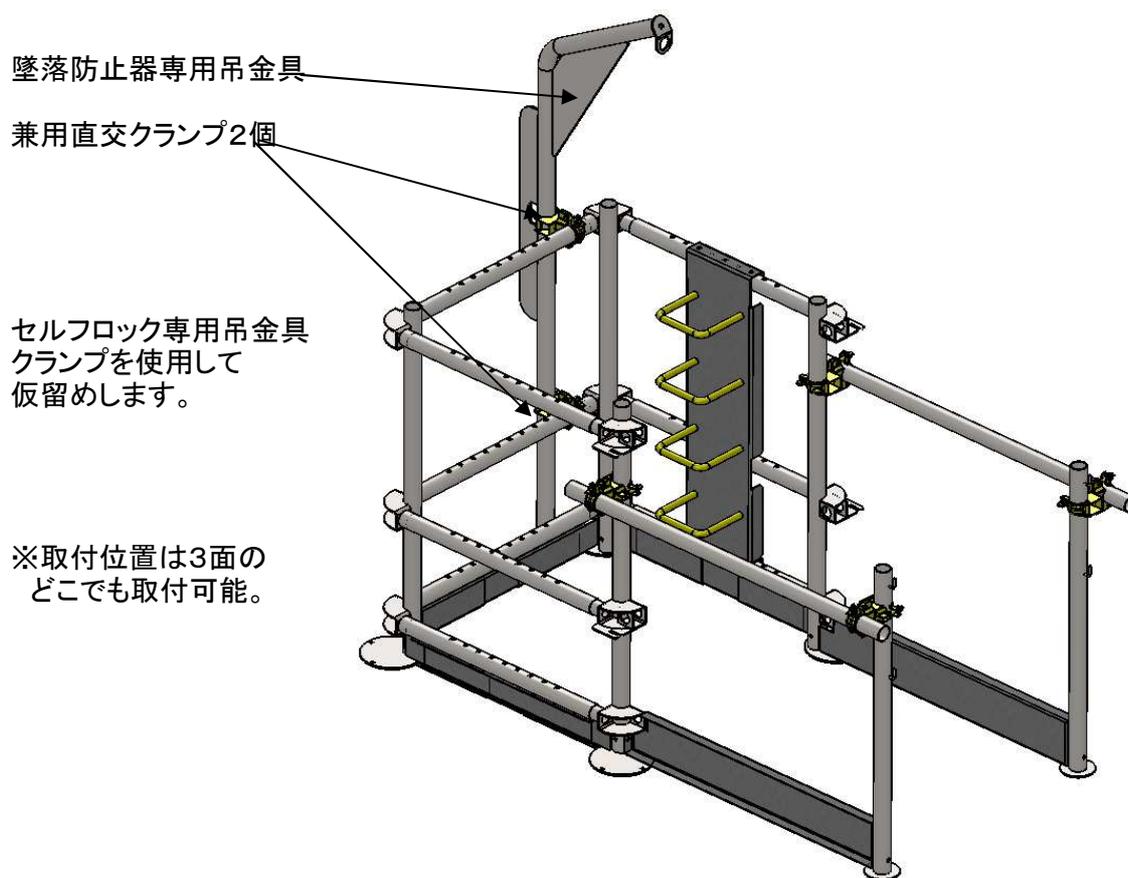
6. 作業通路用巾木と作業通路用支柱の仮留め【オプション】



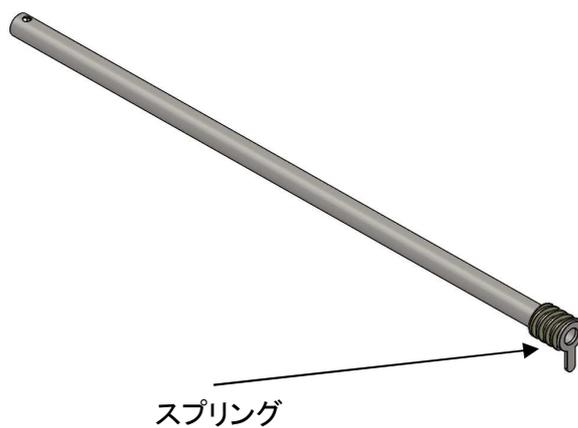
7. 作業通路用手摺の仮留め【オプション】



8. セルフロック専用吊金具の仮留め

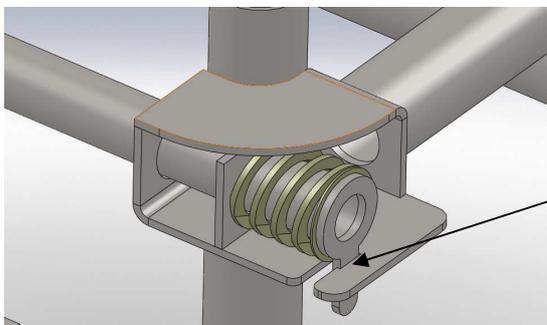
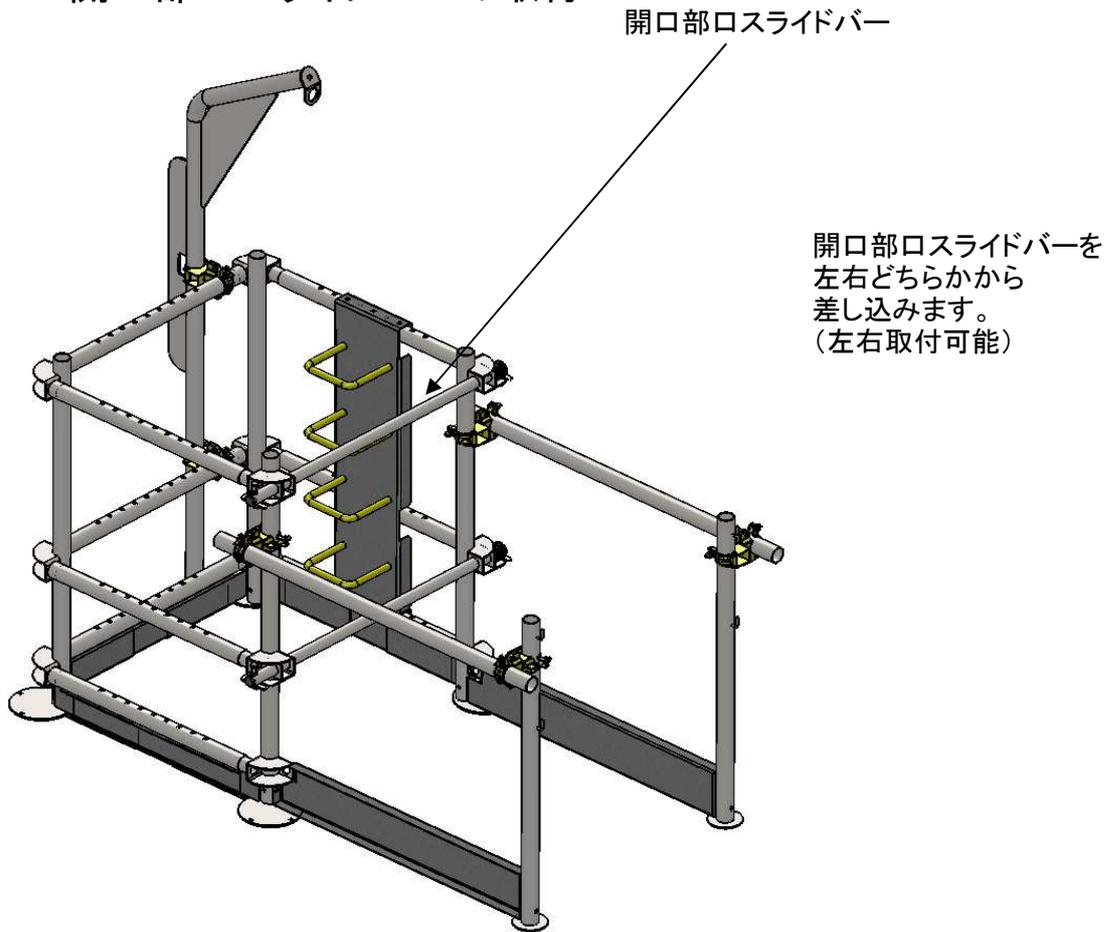


9. 開口部ロスライドバーの準備

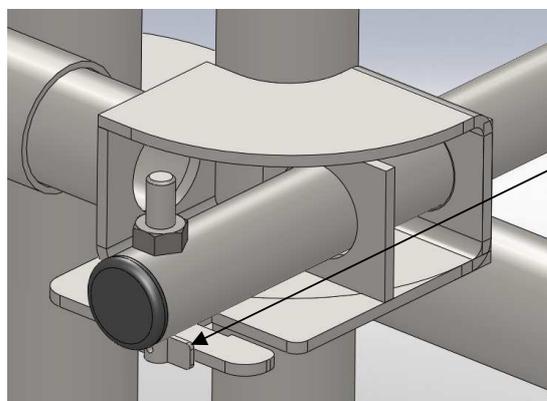


開口部ロスライドバーにスプリングを通します。

10. 開口部ロスライドバーの取付



スライドバーを収納する時、先端部は必ず切欠きの中に「パチン」と音がするまで収納して下さい。



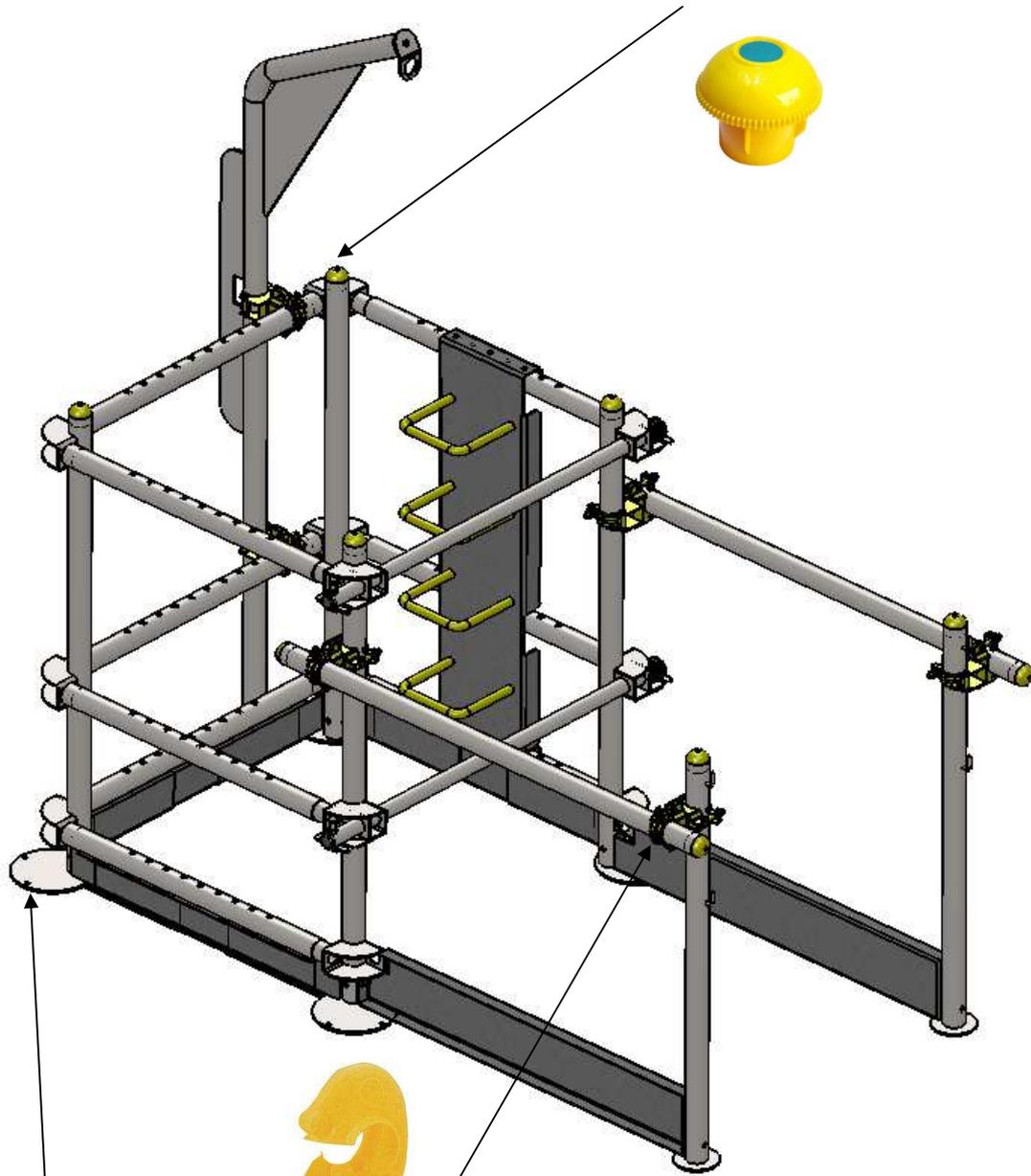
ITハンガーも必ず取付けて下さい。

11. 全体の増し締め

手摺の伸縮部に通しボルトを2本以上ずつ仮留めしてからD-LOCKボルト及びクランプなど、全てを増し締めして下さい。

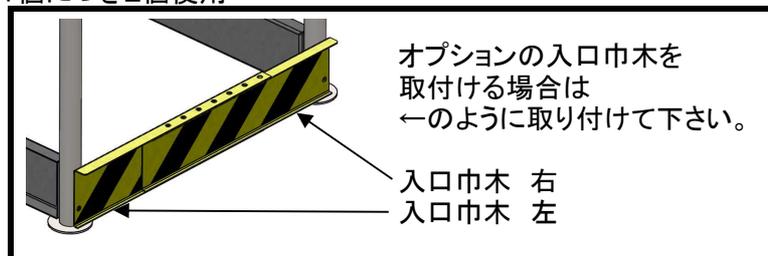
12 単管キャップとクランプカバーの取付

単管キャップ 10個(内6個は作業通路用のためオプション)



アンカープレート

クランプカバー 12個(内8個はオプションの作業通路用)
※兼用直交クランプ1個につき2個使用



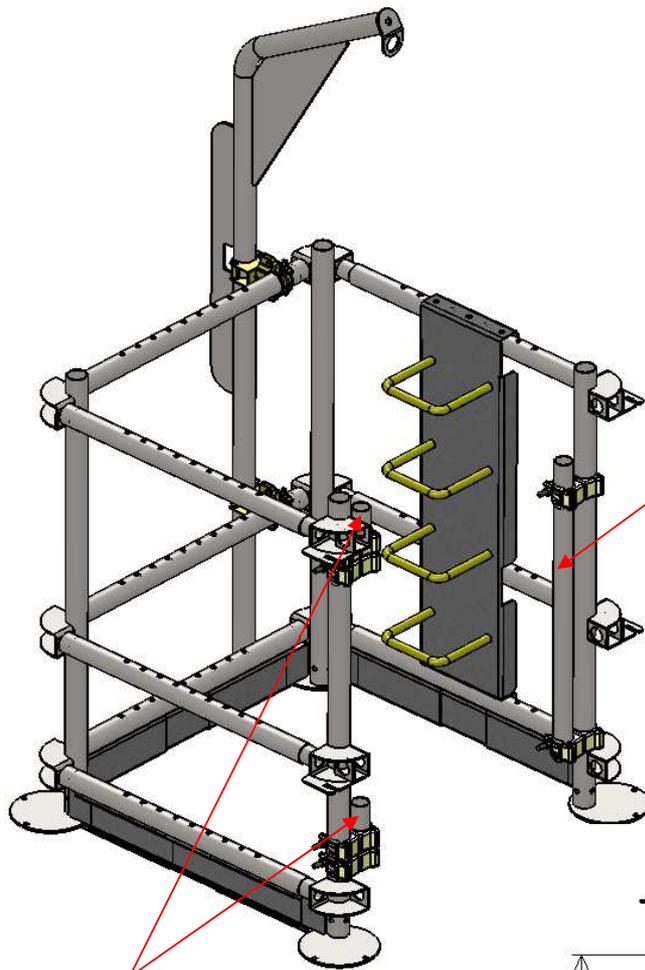
オプションの入口巾木を取付ける場合は
←のように取り付けて下さい。

入口巾木 右
入口巾木 左

13. 最終確認

- ★最後に部材の付け忘れ、ボルトの締め忘れがないか、確認して下さい。
- ★転倒及びズレ防止のため強固な固定を行って下さい。

14 .扉ヒンジパイプと扉ロックパイプの取付



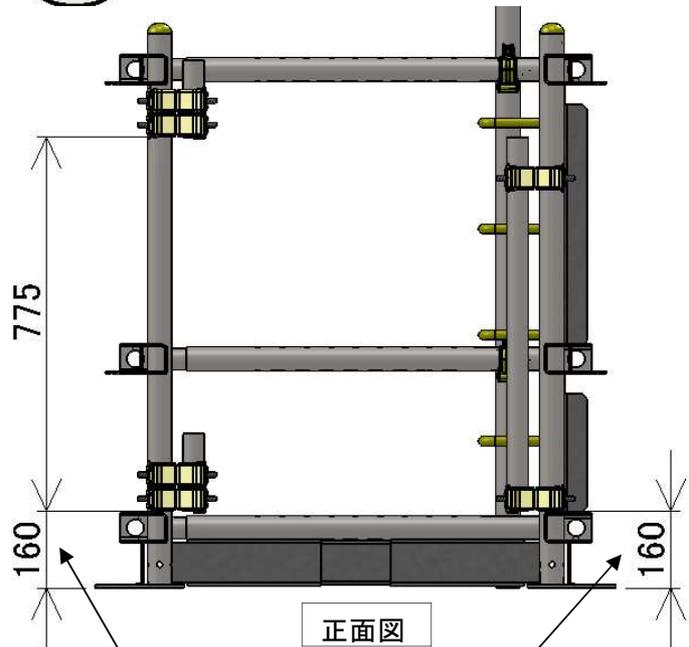
扉ロックパイプ
兼用自在クランプ2個で固定

扉ヒンジパイプ
兼用自在クランプ2個ずつで固定



扉ヒンジパイプと扉ロックパイプのピッチは
660mmです(開口600の場合)。
ピッチが出ていない時には矢印の方向に
回転させて調整して下さい。

※参考ピッチ
開口600~660mm
開口900~960mm

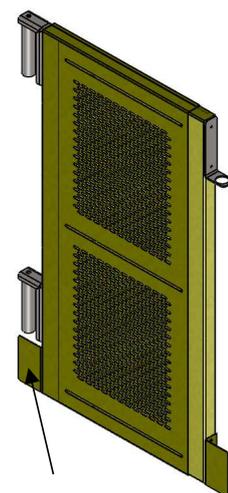
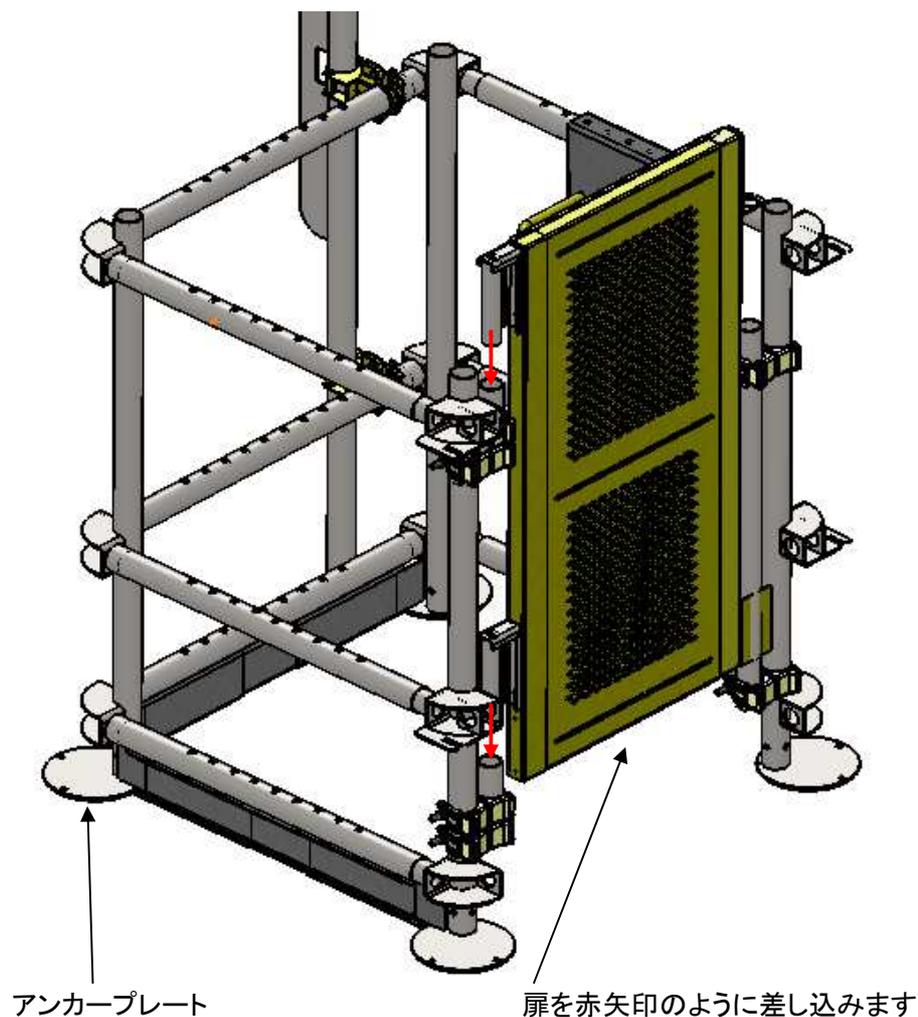


扉ヒンジパイプ下面までの目安寸法

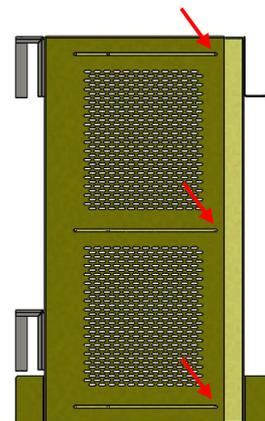
扉ロックパイプ下面までの目安寸法

※あくまで目安の寸法となりますので
次項の扉取付の際に調整して下さい

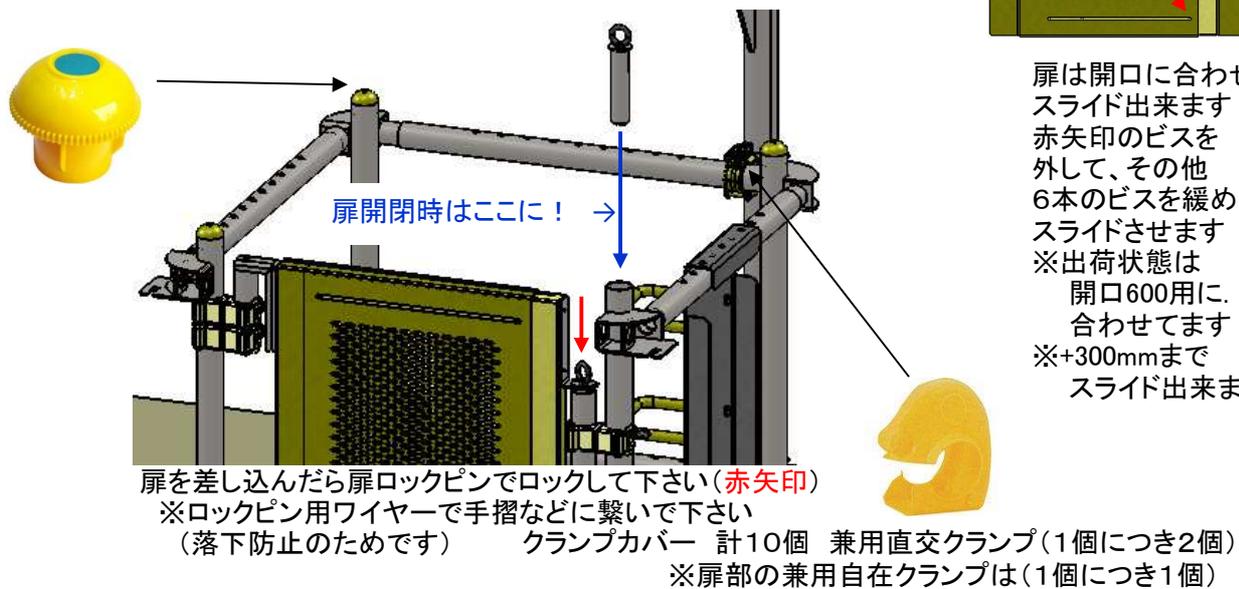
15 .扉の取付と単管キャップ及びクランプカバーの取付



扉を取付ける前に
この部品を外して
から作業して下さい
※扉を取付け後
付け戻して下さい



扉は開口に合わせ
スライド出来ます
赤矢印のビスを
外して、その他
6本のビスを緩め
スライドさせます
※出荷状態は
開口600用に
合わせてます
※+300mmまで
スライド出来ます

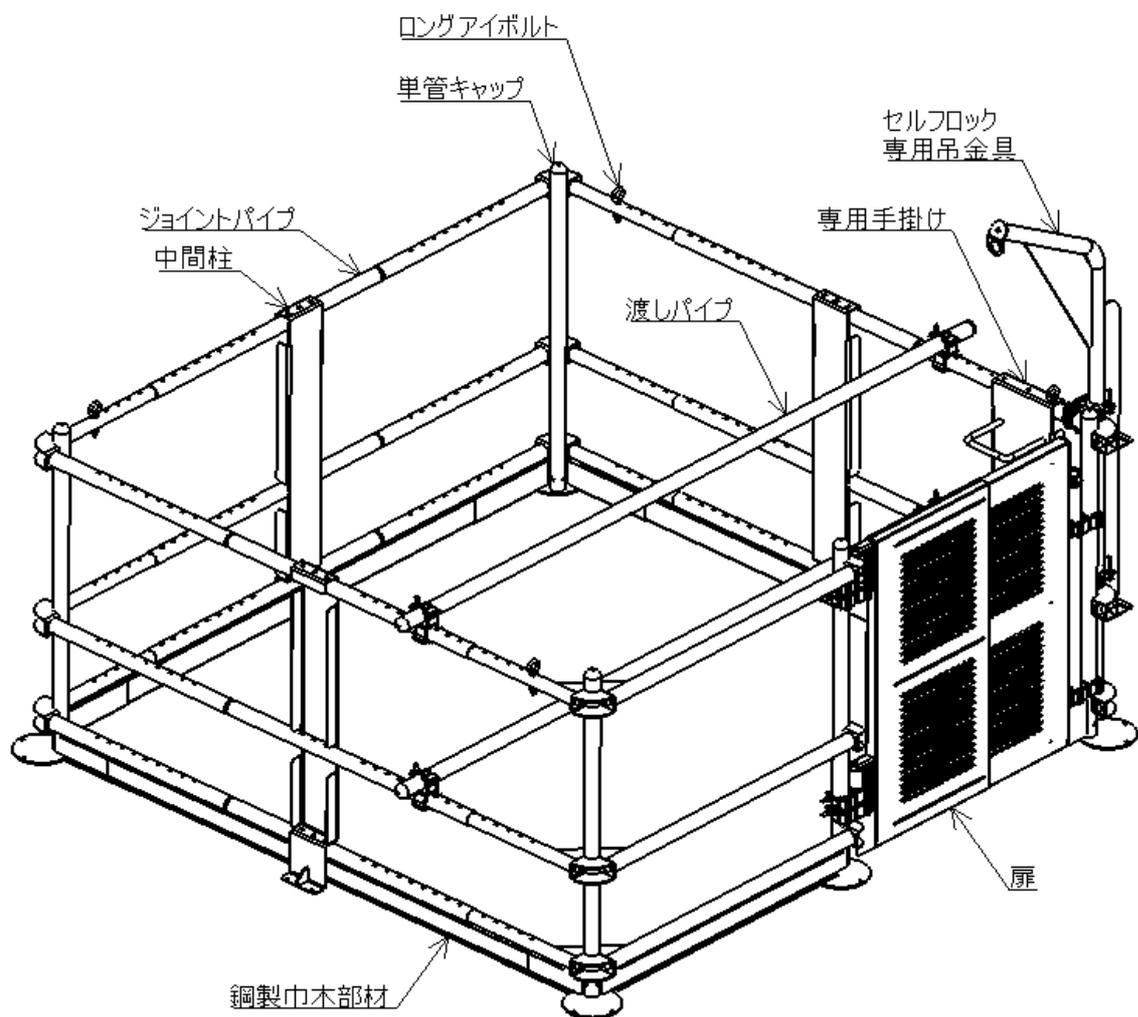


16. 最終確認

- ★最後に部材の付け忘れ、ボルトの締め忘れがないか、確認して下さい。
- ★転倒及びズレ防止のため強固な固定を行って下さい。

2M仕様追加ページ

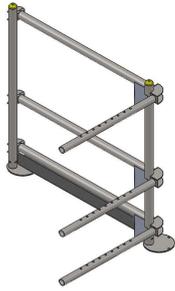
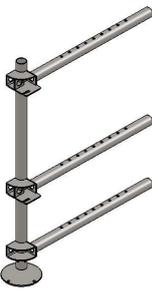
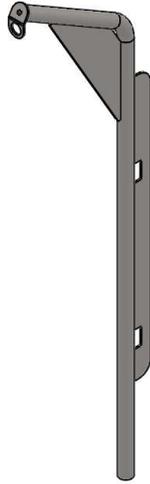
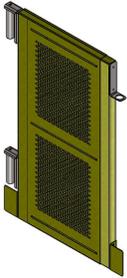
2M仕様



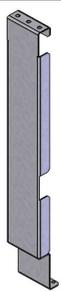
※セルフロックは
墜落防止器のメーカー名
称です。

2M仕様は基本扉仕様ですが、スライドバー仕様も可能なので、ご相談下さい。

部材一覧① 2M仕様

名称	手摺部材A	手摺部材 2M専用	手摺部材B 右	専用手掛け
形状				
個数	2	1	1	1
名称	開口部用巾木A 左	開口部用巾木A 右	開口部用巾木 2M専用	
形状				
	⇔ 勝手反対			
個数	3	3	3	
名称	扉ヒンジパイプ	扉ロックピン	扉ロックパイプ	墜落防止器専用吊金具
形状				
個数	2	1		
名称	扉	ロックピン用ワイヤー		
形状			L=875	
個数	1	1	1	1

部材一覧② 2M仕様

名称	ジョイントパイプ	中間柱	渡しパイプ	
形状			 L=2500	
個数	9	3	2	

名称	D-LOCK	単管キャップ	兼用直交クランプ	兼用自在クランプ
形状	 M12*80	 手摺部材A2個、手摺部材2M専用2個、渡しパイプ4個 ※手摺部材Bには扉ロックピンを挿入するので必要ありません。	 墜落防止器専用吊金具2個 渡しパイプ4個	 扉ヒンジ上下4個、扉ロックパイプ2個
個数	60(予備あり)	8	6	6

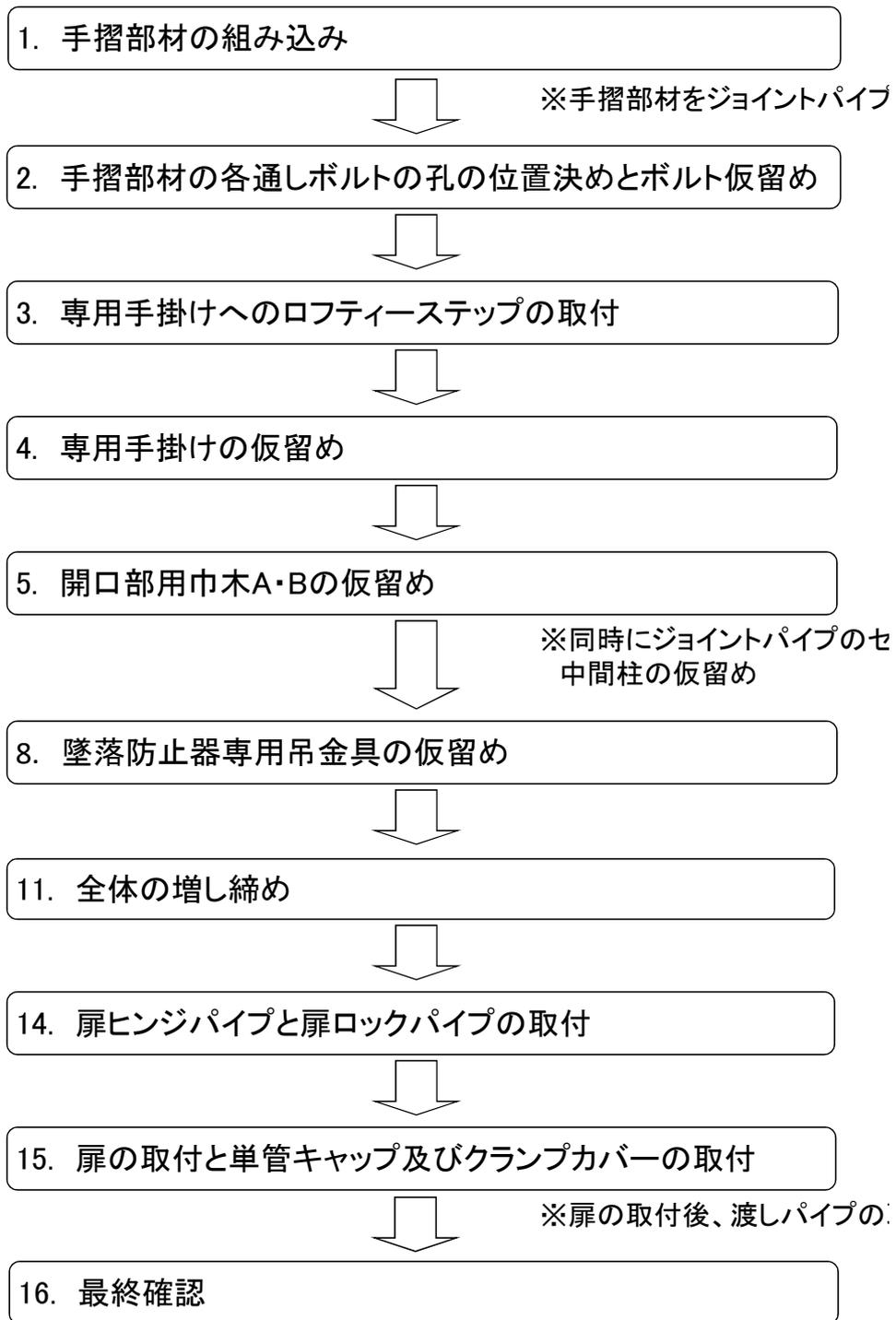
名称	クランプカバー	ロフティーステップ	ロングアイボルト	
形状	 墜落防止器専用吊金具4個 専用扉6個 渡しパイプ8個	 専用手掛け用		
個数	18	4	4	

※組立前に全ての部品が揃っているかご確認下さい。

* 必要な工具等(参考)

充電ドライバー	六角ソケットビット17・19ミリ	巻尺	
プラハンマー	六角ソケットレンチ17・19ミリ	シノ	
モンキー(大)	スパナ17・19・32ミリ		
↑ 32ミリのスパナ代替			

○ その他、組立説明書を参考に必要機材・工具等をご準備下さい。

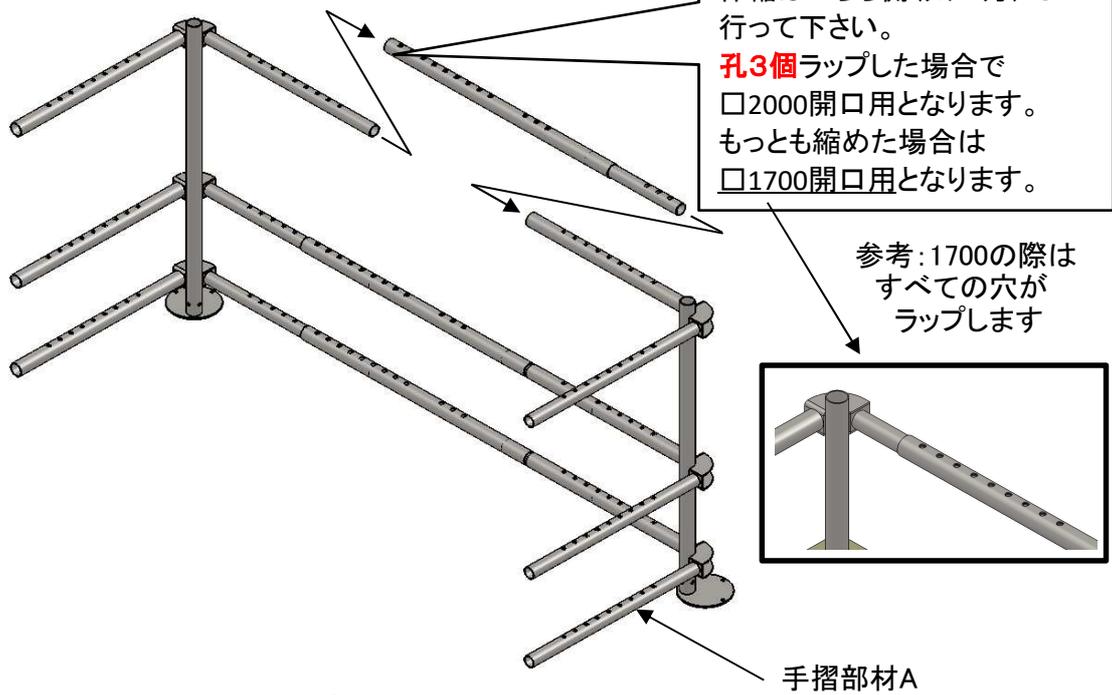


で繋ぐ

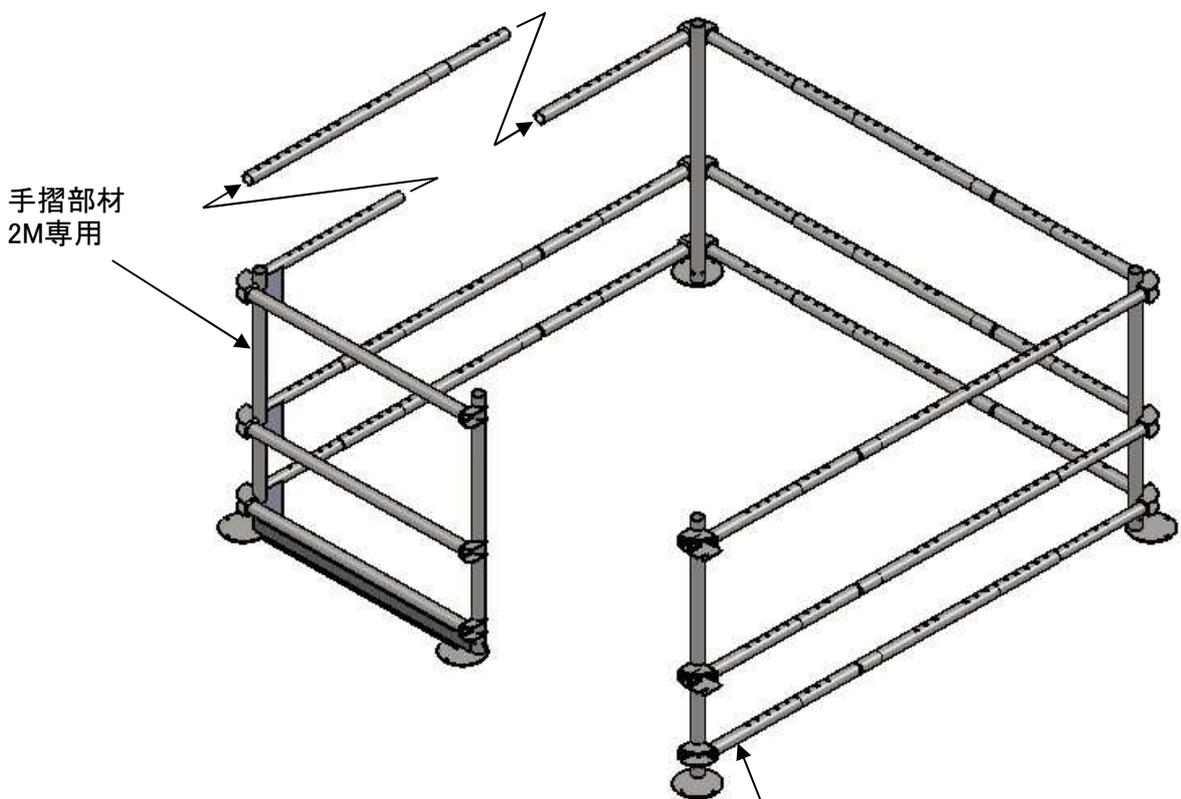
インターに

取付

1.手摺部材の組み込み(2M仕様の場合)

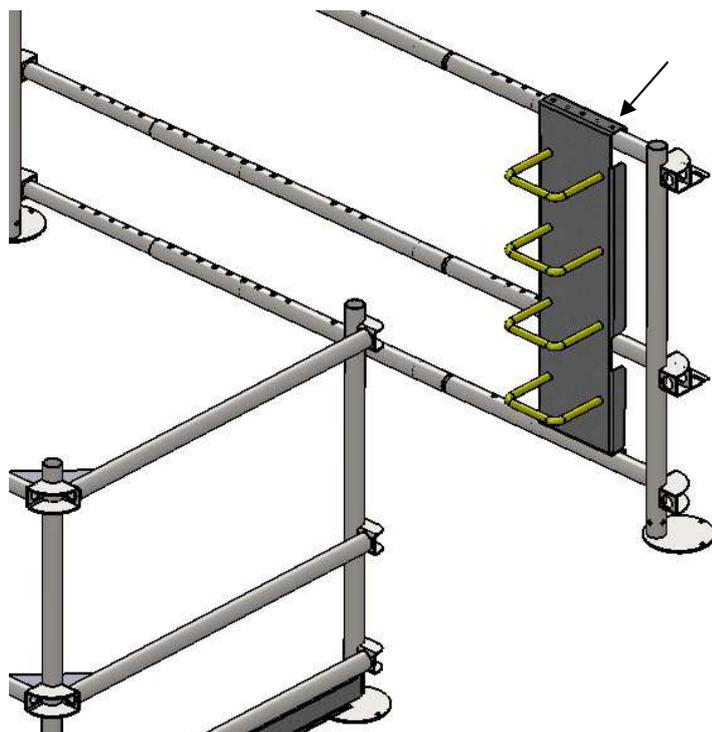


手摺部材A同士をジョイントパイプで繋ぎます。
 手摺部材とジョイントパイプの固定孔は**3個以上**ラップさせて下さい。
 (ジョイントパイプの細い方は伸縮出来ないの固定です)



続いて手摺部材 2M専用・B 右もジョイントパイプで繋ぎます。
 同じく固定孔は**3個以上**ラップさせて下さい。

2. 専用手掛けの仮留め(2M仕様の場合)



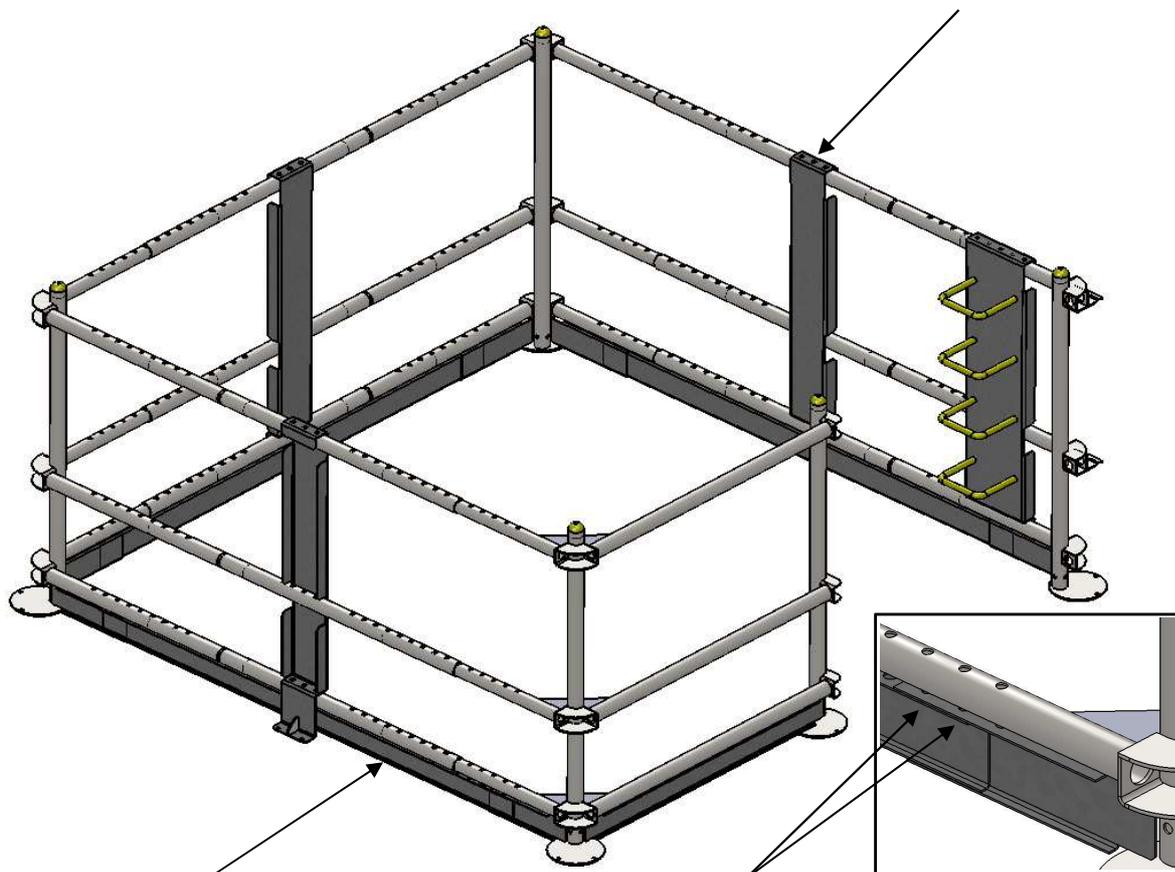
上部の孔3か所の内、2か所を
仮留めして下さい。
(次項の中間柱も同じです)

※下部の孔は鋼製巾木と
一緒に共締めするので、仮留め
しないで下さい。
(次項の中間柱も同じです)

※専用手掛けの取付は左図の
位置以外には取付ないで下さい。

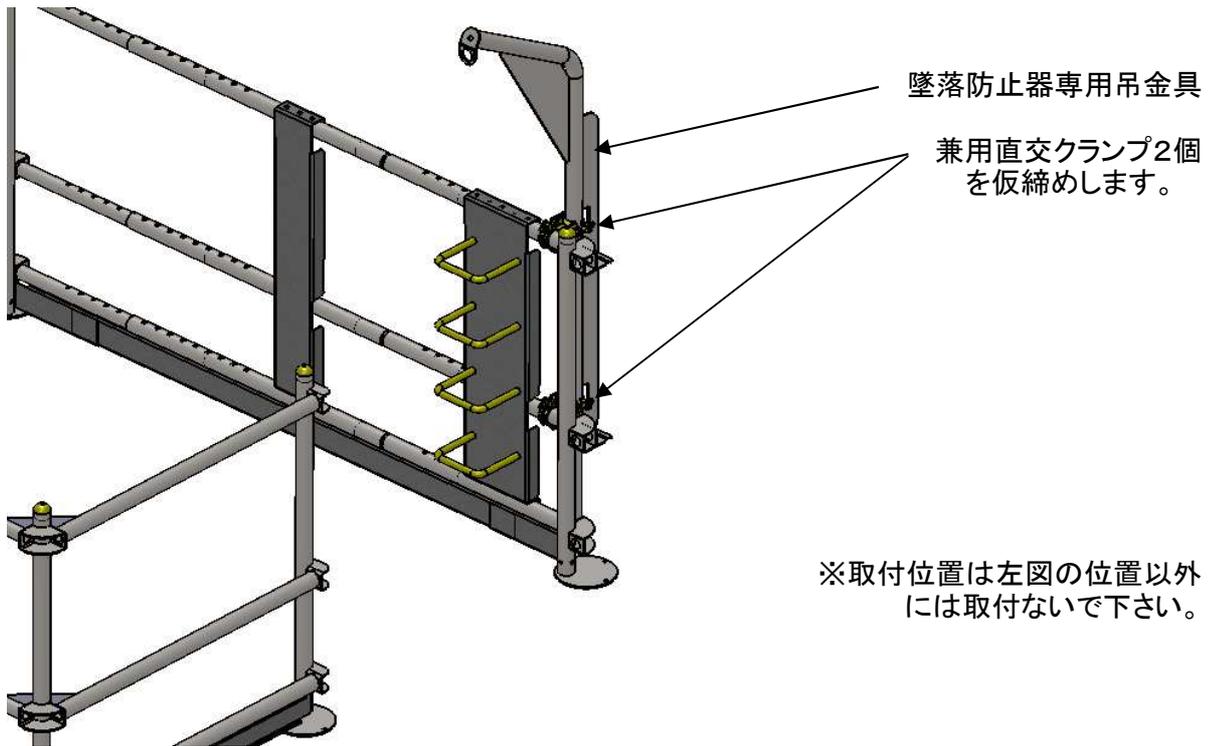
3. 開口部用巾木と中間柱の仮留め(2M仕様の場合)

中間柱(3本)~ジョイントパイプのセンターに仮留め



開口部用巾木(3セット)~ \square 2000開口用の場合は**孔2個**ラップさせます

4.セルフロック専用吊金具の仮留め



5. 渡しパイプの仮留め

